

発行 平成17年 3月  
〒627-8570  
京都府京丹後市峰山町丹波855  
京都府丹後広域振興局内  
京都府丹後農業改良普及センター  
電話 0772-62-4308  
FAX 0772-62-5894  
http://www.pref.kyoto.jp/  
fukyu/tango-f/

# 丹後普及センターだより

## 普及活動報告会を初開催



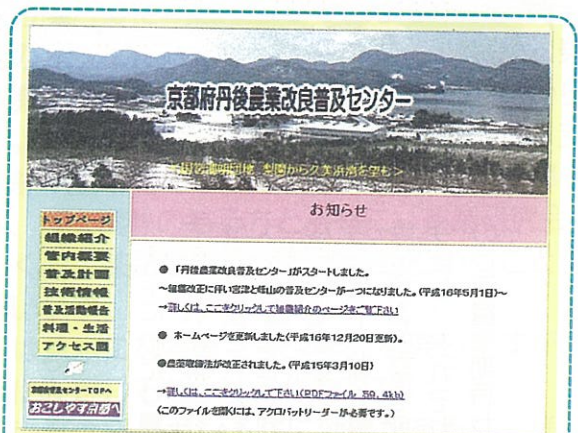
当センターでは6つのプロジェクト活動を重点課題として、3カ年で地域の課題解決を支援していきます。2月6日に丹後あじわいの郷で、初めて普及活動報告会を開催しました。その目的は、農家のみなさんからご意見をいただき、活動に反映させることです。

55名の方からは、期待すること等の貴重なご示唆をいただきました。

なお、重点課題は以下のとおりです。①新規就農者の育成②ブランド野菜の拡大③京都こだわり農法の普及④丹後米の品質向上⑤地産地消の推進と起業活動の推進⑥国営開発農地への新品目導入

### 目次

普及活動報告会を初開催 .....	[1面]
平成17年度の稲作に向けて .....	[2面]
人物紹介 宮尾敏治さん .....	[2面]
台風23号からの復興(宮津ストックの事例) .....	[3面]
丹後で茶づくりを .....	[3面]
新規就農者等対象に営農講座を開催 .....	[4面]
宮津・与謝起業グループ連絡協議会 活動交流会を開催 .....	[4面]



丹後普及センターのホームページをご覧ください  
～近日中にリニューアル予定です!!  
ホームページアドレスは  
<http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/tango-f/>



# 平成17年度の稲作に **向けて**

## 平成16年産の丹後米について

平成16年産の丹後米は、高温により順調に分げつが進み、収量面では平年と同等以上となりました。しかし、出穂期前後の強風や登熟期の低温寡照、収穫期の台風など籾の充実に不利な条件が続いたことから、品質面では未熟粒の発生につながる結果となりました。

一方、皆様の努力の甲斐あって、穀物検定協会の食味ランキングでは丹後コシヒカリが2年連続して「特A」の評価を受けることができました。

## 全国の状況と京都府産米

他府県の主産地では、「品質の高い米づくり」や「環境にこだわった米づくり」などを付加した売れる米づくり対策を構じて、販売攻勢を一層強めています。一方、京都府産米は、特徴に乏しく品質も安定しないため、単品としてのブランド名が浸透しておらず、競争力が弱いという状況にあります。

**ごくろう  
さま  
でした**

長年にわたり農業士として活躍された黒垣さんと川戸さんが退任されました。お二人とも地域リーダーとして重要な役割を担われ、地域農業の活性化や農村女性の地位向上等に多大な貢献を成されました。今後、それぞれのお立場でのご活躍を期待しています。

指導農業士 黒垣 英さん（宮津市）  
女性農業士 川戸 嘉津子さん（京丹後市）

## 売れる米づくりとは

現在、市場では高品質で値頃感のある米が求められており、これらの需要に応じた米づくり・産地づくりが重要となります。産地の評価向上のためには、①一定量を安定供給、②安定した品質、③安全安心、な米づくりが前提です。その上で、丹後地域なら「良食味」や「特A」などといった地域の特色を生かした取り組みを展開することが「売れる米づくり」につながります。

## 平成17年度の活動

普及センターでは、①地域条件等を考慮した品質向上対策（一等米比率の向上）の提案、②特色ある米づくり（こだわり京都米など）の支援を行います。

## 人物紹介



京丹後市弥栄町

## 宮尾 敏治さん

全国農業会議所主催の平成16年度全国経営政策推進大会で、宮尾敏治氏が個人・土地利用部門において「全国経営基盤強化促進委員会会長賞」を受賞されました。

宮尾氏は、岡山県から平成3年に国営開発農地に新規入植され、葉たばこ、長ダイコン、大カブの複合経営を行われ、モデルとなる農業経営の基盤を確立される一方、農業後継者の育成に御活躍されています。



# 台風23号からの復興

台風23号被害直後のハウス



災害から復旧したハウス



10月20日に近畿北部を中心とした各地で甚大な被害をもたらした台風23号は、約110棟ある宮津市のストック栽培ハウスのほとんどに被害を与えました。

部会員の一人、宮津市小田の粉川満さんは、6棟あるストック栽培ハウスが全滅しました。被害を目の当たりにしたときは、信じられない光景に目を疑ったといいます。「そろそろ幕の引き時かとも考えたが、宮津特産ストックの灯を消さないために、もうひと頑張りしよう」と、他の部会員とともに「ブランド産地等緊急支援対策事業」を活用してハウスを復旧されています。

普及センターではこの間、台風被害にあった管内全域を対象として「災害復興プロジェクトチーム」を立ち上げ、被害状況の確認や各種要望の聞き取り、土壌分析の実施や技術講習会などを行ってきました。これらの取り組みは今後とも継続して行い、一日も早い復興をサポートしていきます。

## 丹後で茶づくりを



▲ 京丹後市久美浜町国営永留6団地に新植された茶の幼木（平成16年7月現在）

府内で生産される茶は、全国的にも有名な「宇治茶」として流通していますが、いちじるしく茶が不足しています。

そこで京都府と茶業団体では緊急に茶を増産したいと考えていますが、あらたな産地として、とりわけ丹後に期待を寄せています。国営開発農地のように傾斜がゆるく広大な畑地では、乗用型機械を駆使した省力的な茶業が可能だからです。丹後の農家に茶を作ってもらうべく、支援策も準備しており、京丹後市、JA、京都府では、茶に興味のある方とともに「茶業研究会」をつくり、茶に関する知識を深めていくことにしています。

茶は成木になるまで多少年月を要しますが、長期に安定してもうかる作物です。

茶は高血圧やガン予防に効果があるなど様々な効果があると言われてしています。

茶に興味のある方は「茶業研究会」にご参加ください。



